

掴め君の未来を！

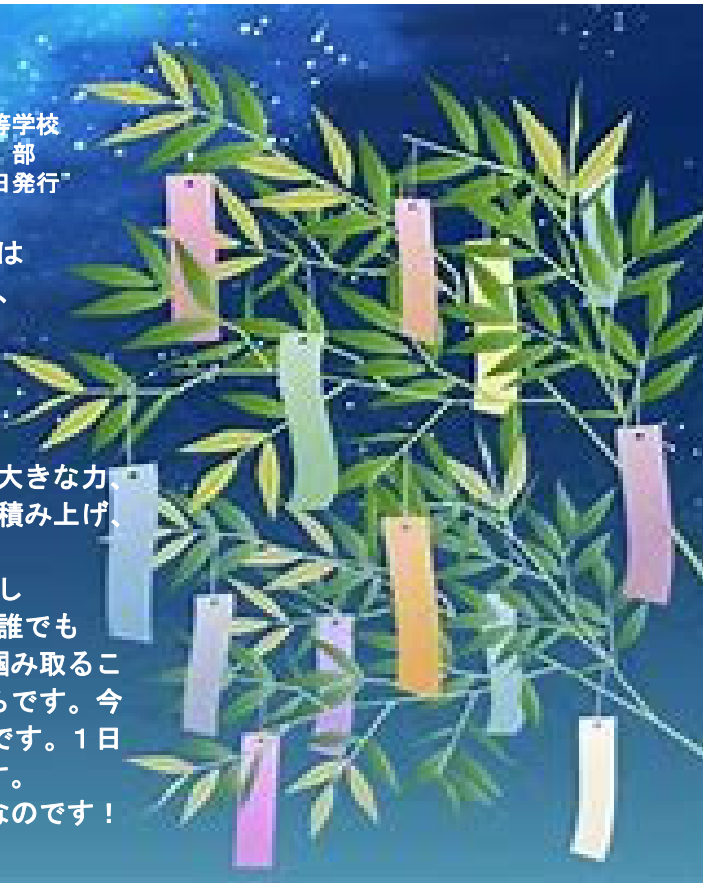
慶進中学校・高等学校
進学指導部
令和2年7月号 令和2年7月1日発行

あっ……という間に、7月です。思えば新年度、ほんの数日で学校は休業になり、自宅で過ごすGW、オンラインの慣れない環境での授業、そして楽しみにしていた慶進祭のない寂しい6月を過ごしました。

ウイルスを「自然」と言っていいかどうかわかりませんが、大きな自然の猛威が押し寄せてくると、人間は非力です。しかし、そんな中でも私たちは知恵をふるって工夫をし、少しずつ自分たちの生活を取り戻しつつあります。人の力はすごいと思いませんか？ どんなに大きな力時にはまるで暴力のような災害に見舞われても、「知の力」をコツコツ積み上げ、対抗してきたのです。

私たちは折々に、機会に恵まれたり恵まれなかったりします。しかし「受験」は、私たちに与えられた最も「平等な機会」だと思います。誰でも「努力して向上する」ことができ、培った「知の力」で自分の将来を掴み取ることができるのですから。「今年出遅れた」と思っている人も、これからです。今年度初めに失われた時間も、これから与えられる時間も、全員に平等です。1日の力は小さくても、日々、「知」を積んでいけば、大きな力に育ちます。

決して急がず、近道をしようとせずに。コツコツ鍛えた「知」は最強なのです！



7月…「夏を制するものは受験を制す」さて何をすべき？

例年と大きく違うところは……

- ① 4月記述模試がなく、自分の位置がよくわからないまま6月マーク模試を受けた。
- ② 夏休みはお盆前後の一週間。あとは学校で授業を受けながら受験勉強を進めなくてはならない。
- ③ AO入試（今年から総合型選抜）の出願が1か月後ろに倒れ、9月から出願、試験は10月に。（推薦は例年通り）

つまりそれはこういうこと

- ① 新学期、通常、現役生の偏差値がガクッと下がる。それは既卒生が模試に加わり、**浪人して受験勉強の進んでいる彼らの偏差値が一時的に上回る**ためである。それを知らずにいると自分の学力が著しく低下したように思ってしまうがそうではない。めげずに前進しよう。
- ② 夏休みには本来、学校の授業が止まっている間に受験勉強が大きく進む。夏に思うように進めなければ後がない。2学期には推薦選抜などが始まってしまう。今年は授業と同時進行。**授業をよく聴いて知識の穴を埋め、家で効率よく過去問演習**などを進めよう。
- ③ AO受験者は、それが不合格でも一般入試まで3か月の準備期間が残されていた。しかし、今年、総合型選抜は1か月後ろに倒れたため、合格発表から共通テストまで2か月しかない。学校推薦型選抜に至っては合格発表から1か月を残すのみ。つまり、**夏に、一般選抜対策をしっかり進めておく必要がある。**

ぜひやろう！

☆大学入学共通テストは過去問の存在しない入試。何が出るかは誰も知らない。だから、模試が最大の予想問題。今年に限って言えば、**なるべく多くのさまざまな模試を受けて経験を増やした人が有利**であるのは間違いない。学校で全員が受けるベネッセ模試のほか、希望者受験の8月河合塾、直前に（たぶん）ある北予備プレなどは最も本番に近い。ぜひ受けておこう。
☆一般選抜しか受けない人は1月の共通テストが初の入試となる。緊張のあまり実力発揮できないことは大いに考えられる。**滑り止めとして私立大の併願型の一般推薦を受け、合格を一つ手に入れてから国公立大入試に向かう**のは賢い方法だ。



先輩の合格体験記 ～第4回～ 東京大学理科I類

【先輩へのメッセージ】

基本的なことをなるべく早く完成させることを目指しましょう。（ただし、基本的なことと簡単なことは違うので、一通り早めに覚えた上でも結局最後まで基本的なことが一番大切だと思います。）

【勉強のやり方について】

国語 古典は、まず定期試験の勉強で必要なことをしっかり暗記し、演習のときに確認（これができれば、あまり時間を割かれずに済む）

現代文は、解き方がしっかりしていないと、問題演習が仇となることすらありうるので、まずは自分ではできるという思い込みは捨て授業をしっかりと聞く。

数学 多くの人にとって（自分も）東大を受ける上でおそらく最も厳しい科目。まず教科書にあるような問題ができないと



話にならないが、それだけでは不十分で、公式に加えて典型的な問題の解き方を暗記しておかないと問題に当たって方針を立てられない。まずは、長期休みに青チャートをしっかりやり、好みで他の問題集をやった後、なるべく多く東大の過去問を、考え方を意識してこなす（ただし計算ミスや時間配分の問題もある）。

英語 難しい文を除き、自然に読み書きできるのが理想。定期試験で英文を覚えることになるだろうが、ひたすら論理的に組み立てるよりも流れて英文を書けるほうが強いので、ある程度覚えることは力になると思う。当然単語力は重要。また、難しい文を読むためには、一度しっかりとそのための参考書を見るべき（複雑な構文）。高3では学校等での演習以外はほとんど単語の勉強のみだった。

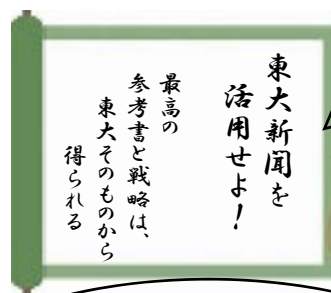


校内の情報を活用しよう！ ～Part 2～

コミュニケーションルーム（職員室隣のガラス張りの部屋）には、進学情報が詰まっています。

赤本は多くの人が利用していると思いますが、「**小論文コーナー**」には全国大学の小論文の過去問集、「**医療系・医学部コーナー**」には医療系小論文に役立つ本を図書室から厳選しています。また、東大・京大コーナーもあります。中でも、今年、新しく、「**東大新聞**」を毎週購入し、閲覧できるようになっています。東大新聞は、あの「**ドラゴン桜公式ガイドブック**」でもオススメされています。ぜひ手に取って読んでみてください。

赤本は、書店で売り切れになってしまうこともよくあるので、早めに購入しましょう。最新版をやり終えたら、コミュニケーションルームの古い赤本を、手続きをすれば借りることもできます。他の人のためにも、借りたらずぐコピーを取って早く返しましょう。



東京大学新聞はその名の通り、東大の本郷構内にある財団法人東京大学新聞社から、毎週火曜日に発行される新聞だ。学内新聞としての歴史も深く、前身である『帝国大学新聞』創刊（1920年）から考えると、今年で85年（発行当時）という長い歴史を持っている。

実は、毎年9月に発行される『受験生特別号』は、まさに東大受験情報の宝庫。現役東大生が編集しているというメリットを最大限に活用し、各教科の出題傾向から合格するためのアドバイスに至るまで、詳細にわたって解説されている。

また、東大内部の情報がダイレクトに得られるというメリットは、それだけではない。たとえば出題傾向にしても、東大教員からの直接的な一次情報だし、また合格した東大生自身が「使える参考書」を明かしてくれるのだから、情報の信頼性は極めて高い。これを活用しない手はない。（「東大へ行こう！ 戦略」より引用）

なくなってしまうのに……と思うかもしれないが、東大入試問題を手本に作られたセンター試験は良問である。共通テストには過去問が存在しないが、共通テストだって教科書から出題されるのだ。センター試験の過去問は、教科書が身につけているかどうかを試す絶好の問題集。夏に知識の定着度を計るためにセンター試験問題を解いてみることをぜひお勧めする。

推薦希望者は校内選考前の最後の面談。家族でよく話し合っておこう！

7月の進学スケジュール

10（金）11（土）
高3 総合学力記述模試
高1・2 ベネッセ総合学力テスト

20（月）～22（水）
高3 三者面談
高1・2 保護者会

7月中～下旬（予定）
大学入試動向分析会

